

高澤 直之

アゼルバイジャン での発見： 料理と文化と 人々の魅力

私は仕事の都合でアゼルバイジャンへはよく渡航する。そのたびにバクーで出会う人々と料理と文化の魅力に驚かされる。料理は非常に豊かで、多様な文化と歴史が反映されていてプロフという米料理は、様々な野菜や肉、香辛料が絶妙に混ざり合い、一口ごとに新たな味わいを楽しむことができる。ドルマというブドウの葉で包んだ肉や野菜の料理も、その風味が素晴らしく、地元のレストランでぜひ試してほしい一品である。また、シャシリクという串焼きは、漬け込んだ鶏肉や羊肉を炭火でじっくりと焼かれており、柔らかく香ばしい香りが食欲をそそるものだ。







特に驚いたのが、バジルやイタリアンパセリなどの香草やトマトがたっぷり盛られたテレビズサラティという野菜の皿。日本では一皿5,000円はするだろう、このプレートは必ず注文する。その香草を肉や魚と共に食べることで、健康的な食事をしている錯覚に陥る。そして全ての料理が不思議と私の口に合うのは



なぜだろうか。逆説的に、アゼルバイジャンの人々は日本の抹茶やラーメンを気に入ってくれるだろうか。そんなことを考えながら食べていると面白い。

アゼルバイジャンの人々も非常に親切で、温かいホスピタリティを持っている。ビジネスの場面でも、彼らの誠実さと友好的な対応は非常に心地よく、円滑なコミュニケーションを生み出してくれる。私が訪れるたびに、現地の方々の温かい歓迎と心のこもったサービスに感動します。彼らは伝統を大切に、家族や友人との時間と絆を非常に重視している。特に、結婚式やお祭りなどのイベントでは、その豊かな文化と歓びを共有する姿が印象的である。

アゼルバイジャンの市場では、新鮮なオーガニックの果物や野菜、手作りの工芸品などが並び、その地域の豊かな資源と人々の創造力が感じられる。わ市場を訪れると、少し恥ずかしがりながらも必ずと言っていいほど現地の方々が笑顔で迎えてくれ、買い物を楽しむ

ことができる。彼らの持つ心温まるホスピタリティと美味しい料理が、毎回の出張を楽しみなものにしてくれる。

古代彫刻や泥火山があるゴブスタン国立保護区では、太古の人類や動物、戦い、宗教的な舞踏、闘牛、武装した漕ぎ手が乗っている小舟、槍を携えた戦士、ラクダの隊商、太陽、星々など、多彩なロック・アートが描かれており、5000年から20000年前の時代に思いを馳せることができる。

アゼルバイジャンは単なるビジネスの目的地以上の価値を持ち、人々の温かさや豊かな文化が織りなす特別な場所であると実感できる。料理・アート・自然・歴史・風景と心から楽しめるものがたくさんあり、過去と未来が融合したものに触れることで心がより豊かになる。それは日本人が忘れかけている昭和の時代（1970～80年代）とよく似た文化が形成されているからかもしれない。つまりは文化的にも経済的にも活気や勢いがあるということではないだろうか。

アゼルバイジャンの方々にも、来日した際には日本の人々との交流や料理で心から日本文化に癒されてほしいと思う。気がついたら私は日本の人々にはこう伝えている。✿

